令和　元　年度評価シート（平成　30　年度実施事務事業）

整理番号	11

部名	教育部	課名	文化課

1．基本情報

事務事業名	02　郷土博物館管理事業								事業類型	施設運営型			
予　算	会計	10	一般会計	款	10　教育費	項	04　社会教育費	目	03　郷土博物館費	予算額	10,930	千円	
長期計画	章	4　文化・交流活動がいきづくまち		施策分野	2　歴史・文化・芸術	基本施策	（1）文化遺産の魅力を生かしたまちづくりの推進						
	実施計画	事業番号・事業名											
関連計画													
根拠法令等	博物館法、青梅市郷土博物館条例												

2．事業の目的

対象（誰を・何を）	目的（どういう状態にしたいのか）
郷土博物館入館者	郷土の歴史や民俗、自然、文化財等について、各分野のテーマについて調査や研究を進め、企画展などを開催し、広く周知する。

3．事業の指標と単位当たりコスト

平成30年4月1日現在人口	134,708 人

成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)
郷土博物館入館者数	年間入館者数	人	目標			18,000	18,000	144.8 円
			実績		17,608	17,416	-192	
			単位コスト	円	1,215 円	1,120 円	-95 円	市民1人当たり純行政コスト（f/人口）
			目標					
			実績					136.7 円
			単位コスト	円	円	円	円	

4．行政コスト計算書

（単位：千円）

勘定科目			年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A
経常費用	業務費用	人件費	職員給与費	5,309	4,606	-703
			賞与等引当金繰入額	449	407	-42
			退職手当引当金繰入額	0	0	0
			その他	0	0	0
			小計	5,758	5,013	-745
		物件費等	物件費	11,700	10,465	-1,235
			維持補修費	298	385	87
			減価償却費	3,567	3,567	0
			その他	0	0	0
			小計	15,565	14,417	-1,148
		その他の業務費用	支払利息	0	0	0
			徴収不能引当金繰入額	0	0	0
			その他	11	21	10
			小計	11	21	10
		小計		21,334	19,451	-1,883
	移転費用	補助金等		60	60	0
		その他		0	0	0
		小計		60	60	0
合計（b）				21,394	19,511	-1,883

勘定科目		年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A
経常収益	分担金・負担金		0	0	0
	使用料・手数料		0	0	0
	その他		947	1,096	149
	合計（a）	0	947	1,096	149
臨時損失（c）			0	0	0
臨時利益（d）			0	0	0
臨時損益（d-c=e）		0	0	0	0
純行政コスト(f)=(b+e)-a		0	20,447	18,415	-2,032

科　目		年度決算額	29 年度決算額 A	30 年度決算額 B	対前年度 B-A
財源	国庫支出金		0	0	0
	都支出金		0	0	0
	その他		947	1,096	149
合計		0	947	1,096	149

（単位：%）

区　　分	年度	29 年度	30 年度
有形固定資産減価償却率		77.2	77.6
受益者負担割合（a/b）		4.4	5.6

5．人員体制

（単位：人）

	年度	29 年度 A	30 年度 B	対前年度 B-A
職員		0.65	0.55	-0.10
再任用職員		0.00	0.00	0.00
嘱託職員		0.00	0.00	0.00
計	0.00	0.65	0.55	-0.10

6．行政コストの主な事項

	経常費用		経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	光熱水費　1,240,749円 修繕料　385,128円 施設管理委託料　4,,169,020円 使用料　388,800円	決算額の主な内訳	【その他内訳】 ・複写機等利用料　8,740円 ・退職手当引当金減額分　1,087,000円
主な増減理由	平成30年度はくん蒸作業がなかったため減額となった。	主な増減理由	

7．貸借対照表

（単位：千円）

勘定科目			29 年度末 A	30 年度末 B	対前年度 B-A
資産の部	固定資産	有形固定資産	事業用資産	77,974	77,809	-165
			土地	28,340	28,340	0
			建物	213,611	217,013	3,402
			減価償却累計額	-164,377	-167,944	-3,567
			その他	400	400	0
			インフラ資産	0	0	0
			土地	0	0	0
			工作物	0	0	0
			減価償却累計額	0	0	0
			その他	0	0	0
			物品	2,490	2,490	0
			減価償却累計額	-2,490	-2,490	0
		無形固定資産		0	0	0
		投資その他の資産		0	0	0
	流動資産	現金		0	0	0
		未収金		0	0	0
		徴収不能引当金		0	0	0
		その他		0	0	0
合計				77,974	77,809	-165

勘定科目			29 年度末 A	30 年度末 B	対前年度 B-A
負債の部	固定負債	地方債		0	0	0
		退職手当引当金		5,631	4,673	-958
		その他		0	0	0
	流動負債	１年内償還予定地方債		0	0	0
		未払金		0	0	0
		賞与等引当金		449	407	-42
		その他		0	0	0
合計				6,080	5,080	-1,000
純資産の部	固定資産等形成分			77,974	77,809	-165
	余剰分（不足分）			-6,080	-5,080	1,000
合計				71,894	72,729	835
負債および純資産の部　合計				77,974	77,809	-165

8．貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産（土地）	勘定科目	事業用資産（建物）
決算額の主な内訳	郷土博物館用敷地　36,371.40平方メートル	決算額の主な内訳	郷土博物館　　鉄筋コンクリート造　2階建て 延床面積 786.171平方メートル 郷土博物館別棟収蔵庫　鉄筋コンクリート造　2階建て 延床面積 675.120平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	収蔵庫内ハロゲン化物消火設備の更新により増額（3,402千円）

9．事業の評価【一次評価】

29 年度末時点の課題事項	・企画展「青梅の考古学～古代からのおくりもの展～」など年４回の展覧会を開催した結果、年間入館者数は昨年度より増加したが、近年の年間入館者数と比較すると、その数は少ない。 ・郷土博物館は昭和４９年に開館してから４４年を経過し、美術館との統合に向けて検討しているが、照明や空調など館内設備の経年劣化が進んでいる。	対応結果 未解決	事業目的を達成するための 30 年度事業目標【Plan】	・郷土博物館の入館者数を増加させるため、親しみやすいテーマを取り上げ、分かりやすい展示に心掛け、周知や募集の方法を引き続き工夫する。 ・子どもたちに郷土の歴史や文化等に興味を持ってもらえるような企画展を年に１回開催する。
上記目標達成に向けた主な活動実績・効果	・企画展および収蔵品展を年４回開催したが、目標値であった18,000人を584人下回った（３０年度総入館者数17,416人）。 ・平成30年度は、明治維新150周年という節目の年であったことから、親しみやすいテーマとして、企画展「明治時代の青梅ー近代化と人々の生活ー」を開催した。また、江戸東京博物館に所蔵される、市内を撮影した最古の写真を借用し、展示することで、多くの市民の方々に見ていただくことができた。 ・各企画展の開催中に、関連映像を館内で見られるようにしたことで、展示内容を補うことができ、効果的であった。 ・展覧会の広報・周知活動として、市の広報、行政メールおよび公式ツイッターなどでＰＲを行った。			

事業評価【Check】						総合評価【Check】
【効率性】事業の進め方	B（良い）	【経済性】予算の使い方	B（良い）	【有効性】施策達成に対し	B（良い）	達成

評価結果から明らかになった課題事項	・「明治時代」や「板碑」などテーマを変えながら、４回の企画展を開催したが、全体的には、入館者数が昨年度より減少となり、入館者数の増加に結びついていない。 ・郷土博物館は昭和４９年に開館してから４５年を経過し、美術館との統合に向けて検討しているが、照明や空調など館内設備の経年劣化が進んでおり、引き続き必要最低限の修繕を行う必要がある。	今後の取組	・郷土博物館の入館者数を増加させるため、「観て、楽しんで、学習できる」ように考えたり、話題性のあるテーマを取り入れたりするなど、企画展の内容を工夫する。 ・子どもたちにも分かりやすく、郷土の歴史や文化財等に興味を持ってもらえるような企画展を開催する。 ・現在、美術館と郷土博物館の複合化の検討を進めているが、館内設備の経年劣化は年々進んでいるため、必要最低限の修繕を行なっていく。	今後の方向性【Action】 改善

※A 非常に良い＝改善の余地なし、B 良い＝必要に応じて改善、C 悪い＝改善または休廃止を検討

１０．行財政改革推進本部評価【二次評価】（対象事業のみ）

評　価	入館者数については、前年度と比較し若干の減少となったものの、時節を捉えた企画展の実施や、観覧者に配慮した展示を心掛けるなど、利用者増に向けた運営面の見直しが図れた。 本館は、小学校の授業の一環として訪れる小学生も少なくなく、青梅市の歴史と文化を知る貴重な施設であることから、今後も子どもたちが興味を持つ企画展や収蔵品展を実施するとともに、広報おうめや市公式ホームページのほか、行政メールや公式ツイッターといったSNSをより一層活用したＰＲに努め、入館者の増に取り組む必要がある。 また、施設については老朽化が著しく、維持補修に係る経費も膨らんでおり、収蔵庫についても収蔵スペースも少なくなっているのが現状である。 老朽化した博物館単独での更新は困難であることから、公共施設等総合管理計画に掲げられている美術館との統合に向けた検討を進めつつ、施設維持に係る修繕等については必要最低限の執行としていくこととする。